ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

マーケティング委員会の活動について

（財）日本ハンドボール協会副会長
マーケティング委員会委員長　山下　泉

4月12日、第1回のマーケティング委員会を開催しました。メンバーは協会役員と、平素協会と絆の深い協賛企業や検定品納入業者の経営者、そしてメディア、マーケティングの有識者の方々です。

既に先月号機関誌で発足の概要については掲載しましたが、この委員会は21世紀の日本ハンドボール協会を継続的、安定的に運営し、発展するために非常に重要な役割を担っております。

第1の目的は財務の確保です。協会の13年度の事業収入の実態は、①協賛企業（27社）約4,700万、②検定業者（12社）1,300万、③アテネ関連強化に関する協賛金として13,000万、計19,000万の多額のご支援を頂いております。目標として20,000万円（一般登録金やJOC等の補助金は除外しています）以上の安定収入を目指しています。

第2の目的はハンドボール登録人口の増加です。現在登録人口約89,000人に加え、未登録競技者や役員、指導者、家族、企業、学校の同僚等を入れますと約20万人の組織と云えます。この組織のパワーを最大限に活用して、マーケティング活動を展開することです。スポンサーに今が買い時と思われるように！

第3の目的はクラブ組織づくりの支援体制の強化です。企業チームの環境の激変により休廃部が続出しております。又、学校スポーツも少子化に伴い競技人口が減少し、非常に厳しい環境です。文部科学省が提唱する総合型地域スポーツクラブが本格的に活動していない現状の中、どうクラブ組織へと移行し、チームを存続させることが出来るかが問題です。日本のスポーツも構造改革が必要な時代となっています。これから多くの企業は宣伝活動や社内の求心力の高揚の目的でチームを所有する時代ではなく、地域のクラブに支援・協賛することにより宣伝メリット以上の価値観を創造することが主流になると思われます。クラブは週5日制で体を持てあましている地域の子供達に対して定期的に指導者を派遣することを義務づけ、健全なる価値をつくりあげることにより、地域の支持が得られ、愛されるチームや企業が生まれるよう支援活動を展開することです。

第4の目的はハンドボールをわかりやすく、愛される競技とすることです。ハンドボールは面白いけどルールが分からない、難しいスポーツと見られています。もっと小学生がやってみたいようなルールに改正し、ルールブックも親しみやすい漫画でつくることも必要です。審判の判定も何の反則かが分からないとよく聞かれます。普及の為の思い切った改革が必要であり、競技人口を増やすこと、そして元気のある競技とすることが重要です。

勿論一番早道は、ナショナルチームが国際舞台で活躍することですが。

マーケティング活動は日本ハンドボール協会が元気で活力があり、20万人のパワーを結集してこそ大きな成果を収めることが出来ます。全員参加で未来を切り開いていかなければなりません。但し主役は私たち一人一人です。

第2回アジアナショナルサーキット2002

韓国の優勝で幕を閉じる

第２回アジアナショナルサーキット2002は、４月24日から28日まで、近畿地区の兵庫、京都、奈良、滋賀の各府県で、韓国、中国、チャイニーズタイペイの２カ国１地域の代表に、日本代表と北京オリンピックを目指す日本代表Ｐの５チームで熱戦が繰り広げられた。

大会は予想通り韓国と日本代表が順当に勝ち進み、最終日にともに全勝で対決した。日本代表は、攻撃に決定力を欠き韓国ディフェンスに14点と押さえ込まれ、優勝を韓国に譲った。若手代表である日本代表Ｐは、小野誠嗣や岩永生の活躍で、中国を破り４位に入る健闘を見せた。

試合結果

■４月24日(水)和田山勤労者体育センター

日本代表Ｐ 23（13－12／10－10）22 中国

［戦評］前半、中国の高いディフェンスに攻めあぐみリードを許すが、速攻やステップシュートなどで追いつき、１点リードで折り返す。後半は、日本代表Ｐの足を使ったディフェンスが冴え、リードを広げるが、中国もロングやポストで応酬、最後の10分は２点差の攻防が続き、会場は最高の盛り上がりとなった。若い日本代表Ｐが１点差の勝利をものにした。

日本代表 27（13－11／14－10）21 チャイニーズタイペイ

［戦評］立ち上がりは互角であったが、日本代表はチャイニーズタイペイのプレスディフェンスになかなかリズムに乗れなかった。しかしＧＫの好セーブに助けられ、２点差で前半終了。後半、疲れが見られるタイペイ・ディフェンスを崩し退場者を誘いながら、ゲームの主導権を握り勝利した。

■４月25日(木)生駒市民体育館

韓国 30（14－11／16－ 7）18 日本代表Ｐ

［戦評］速いパス回しで、多彩な攻撃を見せる韓国は、攻守に粘る日本代表Ｐを徐々にリードし、前半11－14と３点リードで終わる。後半に入って、韓国はスピードと堅い守りでリズムをつかみ９連続得点するなど、日本代表Ｐを圧

アジアナショナルサーキット2002大会　男子　日本代表メンバー

監督	田口隆	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	F．ヴォル	㈶日本ハンドボール協会
トレーナー	赤尾和彦	トレーナーズ・フォー・アスリート

	No.	氏名	所属先名	生年月日	身長	体重
GK	1	坪根敏宏	湧永製薬	1973. 6. 4	187	92
	12	四方篤	本田技研	1972. 5.12	190	100
	16	高木尚	大同特殊鋼	1978. 4. 7	187	97
CP	4	松林克明	大同特殊鋼	1977.10.23	181	84
	5	佐々木教裕	本田技研	1974. 4. 8	191	95
	6	野村広明	トヨタ車体	1975. 2.13	177	80
	8	池辺健二	本田技研	1974. 9.19	192	97
	9	永島英明	大崎電気	1977. 3.24	188	90
	10	太田芳文	〃	1979.12.28	186	77
	11	中川善雄	〃	1974. 8. 9	180	83
	13	羽賀太一	本田技研	1974. 6.26	192	90
	14	田中将	本田技研熊本	1976. 1.17	172	73
	15	阿部展行	本田技研	1975. 8.30	180	74
	20	田場裕也	㈶日本ハンドボール協会	1975. 9.12	183	86
	21	下川真良	湧永製薬	1976. 6.23	171	70

倒した。日本代表Pは、粘りを見せたがミスが出て失点を重ね、リズムに乗れなかったことが悔やまれる。

■4月25日(木)田辺中央体育館

日本代表	26	15－ 9 11－ 8	17	中国

［戦評］立ち上がりサイドとのコンビネーションプレーから田場のカットインで先取した日本代表はリズムに乗り、その後もサイドシュートや速攻などで得点を重ねる。一方中国も9番・崔のミドルシュートなどで必死に追いかけるが、再三のノーマークのチャンスを日本代表GK坪根のファインセーブで阻止され、15－9と日本代表のリードで前半を終了する。後半に入っても日本代表は、前半終了直前に3番・陳を負傷退場で欠き、攻守にリズムを崩した中国に対し、速攻やポストプレーで着実にリードを広げる。中国も15分過ぎ、続けて退場者を出した日本代表に対し3点を連取し追い上げるが、それ以上に得点差をつめることが出来ず、26－17で日本代表が快勝した。

■4月26日(金)彦根市民体育センター

チャイニーズタイペイ	30	14－ 7 16－11	18	日本代表P

［戦評］前半立ち上がり、日本代表Pのミスに乗じ、チャイニーズタイペイが速攻などで着実に得点を重ねる。日本代表Pもセットプレーでの攻撃を試みるが、タイペイの3：2：1ディフェンスを攻めきれず、10分間で1得点にとどまり、13分過ぎに退場者を出し不利な展開となる。タイペイが19分過ぎ退場者を出し、日本Pもようやくペースをつかみかけるが、前半を14－7とチャイニーズタイペイのリードで終了。後半に入り、タイペイは17番のテクニックあるシュートで加点、日本Pも必死に反撃するも30－18でチャイニーズタイペイの完勝であった。

韓国	39	16－ 8 23－10	18	中国

アジアナショナルサーキット2002大会　男子　日本代表Pメンバー

役職	氏名	所属
監督	松井幸嗣	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	スタニスラフ クリチェンコ	本田技研
コーチ	栗山雅倫	㈶日本ハンドボール協会
アシスタントコーチ	橋本行弘	本田技研
トレーナー	大熊利恵	トレーナーズ・フォー・アスリート

	No.	氏名	所属先名	生年月日	身長	体重
GK	1	川床充弘	日本体育大学	1983. 2. 9	183	82
	12	谷内敏彦	中央大学	1983. 7.31	189	95
	16	志水孝行	大阪体育大学	1983. 8.27	185	80
CP	2	中山亮	日本体育大学	1982. 8. 1	186	86
	3	武田亨	国士舘大学	1982. 9.17	187	75
	4	大房哲也	日本体育大学	1983. 2.16	176	73
	5	草原智也	大同工業大学	1983. 2. 1	175	65
	6	小野誠嗣	大阪体育大学	1982. 7.23	187	83
	7	嘉古田奨吾	日本体育大学	1982.12.21	172	63
	8	兼本浩誉	桃山学院大学	1983. 9. 4	170	60
	9	地引貴志	日本体育大学	1983. 5.20	183	83
	10	門山哲也	日本大学	1983.10.22	184	82
	11	東長濱秀作	日本体育大学	1984. 2. 3	184	78
	13	岩永生	筑波大学	1983. 8. 9	182	70
	14	小林宏匡	日本体育大学	1983. 6.17	177	70
	15	富田恭介	中部大学	1983.11.11	189	76

［戦評］韓国11番・チャン選手、20番・リ選手等の小気味良いミドルシュートや観衆を度々沸せたスカイプレーで前半開始より中国を圧倒、ダブルスコアで前半を折り返した。後半に入っても韓国のひく３－２－１のプレスディフェンスにリズムをとりきれない中国は攻守ともに精細を欠き、ミスの連発を確実に得点に結び付けた韓国が圧勝した。

■４月27日（土）グリーンアリーナ神戸

日本代表 28（14－ 7 / 14－ 8）15 日本代表Ｐ

［戦評］開始早々日本代表・野村はディフェンスの肩越しの不意のシュートで得点。その後も着々と加点。一方日本代表Ｐは、なかなかシュートが決まらず、四方の好セーブも大きく差は開く。日本代表は速いパス回しからのカットイン、ポストプレイ等々多彩な攻撃を展開、代表Ｐのディフェンスの甘さをつく。日本代表のお株を奪うような門山の高い打点のシュートも決まるが７点差で前半を終える。後半、見違えるほどにオフェンス、ディフェンスともに蘇った代表Ｐは、２点連取されたもののその後３連続得点し、じわじわ追い上げにかかる。しかし、代表の高さと幅の広いディフェンスに阻止され、逆にミスから点を与えてしまい、ずるずると点差をあけられ、ほぼダブルスコアで終了。しかし、６年後に期待が持てる粘りではあった。

韓国 32（16－10 / 16－14）24 チャイニーズタイペイ

［戦評］チャイニーズタイペイのスローオフで始まった。前半、まずタイペイが速攻で得点するが韓国はすぐさま追いつき、逆転に成功。ポストシュートを多用しリードを増やす。タイペイは高い打点からのシュートも決まるがイエローカードも続出、次第にディフェンスが甘くなり、動きにまさる韓国に加点を許し前半を終了。後半も韓国の勢いは止まらず着々と加点。しかしタイペイもセンターからの高い打点のシュートで応酬しじわじわ追い上げるが、７ｍＴを続けざまに決められ、次第に集中力が欠け気味となり、ついに８点の差をつけられ試合終了となった。

■４月28日（月）グリーンアリーナ神戸

中国 34（17－18 / 17－16）34 チャイニーズタイペイ

［戦評］先取点は一瞬のスキをつく肩越しシュートを決めたタイペイ。その後も着実に加点。相手のミスに乗じ多彩

なプレーを見せる。一方中国は、６分過ぎからエンジンがかかり出し、双方取られたら取り返す展開。９分過ぎ、失点直後のタイペイ13番・曹の超速攻は見事。好セーブの応酬、そこからの一人速攻など見せ場続出。タイペイ19分過ぎから４連続得点で抜け出すかに見えたが、中国も執念を

アジア ナショナルサーキット2002　得点表

順位	国名	CHN	TPE	KOR	JPN	JPNP	数	勝	分	負	得点	失点	差	点
5	中華人民共和国（CHN）	＼	△ 34 17−18 17−16 34	● 18 8−16 10−23 39	● 17 9−15 8−11 26	● 22 12−13 10−10 23	4	0	1	3	91	122	−31	1
3	チャイニーズタイペイ（TPE）	△ 34 18−17 16−17 34	＼	● 24 10−16 14−16 32	● 21 11−13 10−14 27	○ 30 14−7 16−11 18	4	1	1	2	109	111	−2	3
1	大韓民国（KOR）	○ 39 16−8 23−10 18	○ 32 16−10 16−14 24	＼	○ 25 11−6 14−8 14	○ 30 14−11 16−7 18	4	4	0	0	126	74	52	8
2	日本代表（JPN）	○ 26 15−9 11−8 17	○ 27 13−11 14−10 21	● 14 6−11 8−14 25	＼	○ 28 14−7 14−8 15	4	3	0	1	95	78	17	6
4	日本代表P（JPNP）	○ 23 13−12 10−10 22	● 18 7−14 11−16 30	● 18 11−14 7−16 30	● 15 7−14 8−14 28	＼	4	1	0	3	74	110	−36	2

見せ反撃、前半終了１秒前に１点差まで追いつく。後半開始早々、中国は２点連取して遂に逆転。その後互いに２点取られれば２点取り返すこと４度。一進一退が続くがタイペイがじわじわ突き放しにかかる。双方相手のパスミスなどに乗じての得点が多くなる。中国も20分過ぎから底力を見せ始め、27分前についに同点に追いつく。その後も一進一退となるが、とうとう終了１秒前タイペイのボールをカットし速攻をかけた中国10番・朱の執念のシュートによりドロー。すさまじい試合は幕切れとなった。

韓　　　国 25（11− 6 / 14− 8）14 日 本 代 表

［戦評］開始１分15秒、13番ＬＥＥのポストシュートによる先取点に始まり韓国は３連続得点。一方日本は、７分過ぎにやっと野村のサイド、坪根の好セーブ後の下川の速攻による２点の後は韓国の堅守に阻まれ、20分過ぎまで得点できない。日本代表も好セーブの連発だが、韓国の速い動き、高い打点と守備に攻めあぐねるうちに失点を重ね５点差をつけられ前半終了。後半も韓国の連取で始まる。日本は相手チームに退場者が出ている時にようやく５点を取るが、あとは韓国の一方的ゲームとなる。日本のオーバーステップ、シュート失敗からの速攻に次々と失点、24分過ぎの太田のシュートが日本の最終得点となる。韓国は終了５秒前にもダメ押しの１点を入れ試合終了。終止韓国の速さと高さに圧倒された試合であった。

新常務理事紹介

アテネオリンピック出場と北京でのメダル獲得を目指して

(財) 日本ハンドボール協会常務理事　**石井　勝**

日本協会の参事として、アテネオリンピック特別強化委員会のお手伝いをさせて頂いておりましたが、平成14年3月より日本協会常務理事を仰せつかりました。

参事の頃よりアテネオリンピックに向け100%出場する事を目標にし、計画に沿って着実に強化を進めてきました。世界選手権アジア予選(2月・イラン)では、宿敵韓国と同等の試合をする事を目標にし、ナショナル強化は4月～9月までの強化シーズンを設定し、徹底した強化合宿、強化試合、海外遠征を計画・実行して参りました。

その結果として、合宿日数:57日、海外遠征:59日、2001年度国際試合：33試合の実績を踏まえ強化をはかって参りました。世界選手権アジア予選(イラン)の結果は、残念ながら世界選手権出場権を獲得する事は出来ませんでしたが、対韓国戦では今までは前半に差を広げられ、そのままズルズル相手ペースのまま差を縮められず敗戦していましたが、今回は相手選手へのコンプレックスもなく55分間戦えました。当然ハンドボールは60分間のスポーツであり、満足いくものではありませんが、実力差は縮まり、チーム内に自信が出来たことは大きな成果であります。また、対サウジアラビア戦については、度重なる相手選手の暴力的プレーに対し、負傷を負いながらも怯むことなくプレーする姿に戦うチームの強い姿が見られました。その中で特に13年度より始めましたスペインリーグ留学の若手選手、宮崎・内田選手が参戦し活躍した事は、今後に大きな希望が膨らんだと考えます。

2003年9月、日本で開催されるアテネオリンピック予選で出場権100%獲得を目指し、日本リーグ試合数の増加による個々の選手強化及び各チームとのコミュニケーション作りのため、全日本スタッフによるチーム訪問、強化計画の説明会、更に40試合の国際試合を計画し、数多くの経験を積ませて強化をはかって参ります。また、今年度よりポストアテネに向け、北京オリンピックの強化として具体的な実行計画を立案し、計画に沿って着実に進めて行きます。

これらの強化システムを継続させていくために日本ハンドボール協会では、この4月よりプロジェクト21、構造改革のプロジェクトをスタートさせると共に新たにマーケット委員会を設立し、積極的に意見聴取をし取り組んでまいります。

日本リーグの加盟チームの皆様、またファンの皆様にナショナルチーム強化のため、日本リーグの大幅な日程変更等、大変ご迷惑をおかけしました事をお詫び申し上げます。我々の日本リーグのトップがナショナルチームである事を理解していただきまして更なる御協力をお願い申し上げます。

アテネオリンピック出場と、北京オリンピックメダル獲得を楽しみにしてください。頑張ります。

2001年度ミズノ スポーツメントール賞

井　薫氏が受賞

（財）水野スポーツ振興会では、（財）日本体育協会、（財）日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノ　スポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

3月15日、高輪プリンスホテルで開かれた2001年度選考委員会において受賞者を決定し、ハンドボール界から井　薫氏が選出されました。

井　薫（いい かおる）氏（日本ハンドボール協会　元女子ナショナルチーム監督）63歳

大学卒業後、熊本大洋デパート、山鹿立石電気（現オムロン熊本）女子ハンドボール部の監督としてチームを率い、全日本総合選手権、全日本実業団選手権、日本リーグ、国体等で数多くの全国制覇を達成、女子チーム指導者の第一人者として高く評価されている。これらの指導実績から女子ナショナルチームの監督に就任、昭和51年にモントリオールで開催された第21回オリンピック競技大会ではチームを第5位入賞に導いている。その後、日本ハンドボール協会強化担当常務理事、アジアハンドボール連盟競技組織委員として組織・強化体制の基盤作りに尽力するとともに、平成9年には熊本市で開催された第15回世界選手権大会の運営等にも携わり大会を成功に導く等、日本ハンドボール界の発展に大きく貢献している。（熊本県在住）

表彰式会場にて（中央が井 薫氏）

平成14年度
全日本男子ハンドボールチーム
強化活動計画

全日本男子監督　田　口　　隆

✲ 今後の強化の進め方 ✲

【目標】

1）パリ・ベルシー国際トーナメントでのヨーロッパ・アフリカのトップクラスからの勝利（僅差の戦い…60分間戦い抜く）
　※ 参加予定国…日本・フランス・デンマーク・チュニジア

2）アジア大会での韓国からの勝利

3）世界選手権出場国からの勝利
　※ 世界選手権直前にヨーロッパ各地で行われる大会に参加する

【強化施策】

1）国内・海外強化合宿による、基本プレーの精度アップ
　内容：前記参照

2）全日本強化活動・所属チームでの強化活動に連携を持たせ、基礎体力・応用体力の向上（個別のトレーニング処方の作成・実施・結果判定）

3）国際試合の経験を多く積む

【具体的強化施策】

◇ コミュニケーション作り

定期的な監督会議実施（1回／月）4月～8月
全日本スタッフによるチーム訪問（1回／月）11月～3月
全日本監督による強化計画説明会
　　3月末～4月初　日本リーグ所属全選手対象

◇ 国際試合の経験を多く積む

月	内容	試合数
4月	アジアナショナルサーキット	3試合
6月	パリ・ベルシー国際トーナメント	3試合
6月	親善試合（フランス1部リーグ）	4試合
7月	フランスシリーズ（日本国内）	5試合
8月	ドイツ遠征（ブンデスリーグ他）	10試合
9月	外国人選抜チーム（案）	2試合
10月	アジア大会（プサン）	5試合
1月	欧州遠征（世界選手権直前）	8試合
	計	40試合

◇ 国内強化合宿の実施

基礎体力・応用体力の向上については、所属チームにおいて責任を持ってもらう。

全日本強化活動期間においては、主に個人・チームコンビネーションの向上を目指したトレーニングにする。

✲ 今後の対策について ✲

アジア大会を目指す中で、今回の反省部分である基本プレーの精度アップに多くの時間を費やし、チームの仕上げを9月に入ってからの時期に行うぐらいのプランが最適ではないか。（この間にアジアサーキット・フランスシリーズ・欧州遠征と試合を重ねていくが、チーム全体でのプレーは現行のままにとどめ、個人ないし少数でのコンビプレーの精度アップを図る。）

◆ディフェンス

・バックプレーヤーのディフェンス向上
　（現在、10名のコートプレーヤーのうち真ん中のディフェンスができるものが少なく、中川・田場に負担がかかっている。）
・サイドプレーヤーのディフェンス向上
・大型選手の更なるパワーアップ
・アグレッシブなディフェンスでの姿勢の体得

◆オフェンス

・バックプレーヤーのシュート力向上
・サイドプレーヤーのシュート力向上
・ポストプレーヤーのスピード向上およびアグレッシブな攻撃姿勢
・ボールがない状態でのプレーの質の向上
・速攻の精度向上
・サウスポーバックプレーヤーの確保（茅場の復帰など）

◆全　体

・60分間プレーできる選手の育成
・心肺機能の向上
・パワーの向上
・試合経験を更に積む
（対戦相手のレベルを上げる・大会出場の機会を増やす・アウェーでの過酷な試合環境など）

平成14年度
女子日本代表チーム事業計画

女子日本代表監督　西　窪　勝　広

◆ 最大目標

平成15年度
アテネオリンピック出場権獲得(予選　H15年8月　神戸)

◆ 14年度目標

アジア選手権　3位以内獲得　7月カザフスタン
アジア大会　　3位以内獲得　9月韓国：釜山

☆ 強化ポイント
・チーム強化と個人強化の期間を区別して強化を図る。
・チェック試合を設定し、強化の成果を確認する。
① 国内試合
　高校男子と九州・関西・関東各学生リーグとの連携
② 国外試合
　中国・カザフスタンの大型チームに対応する為の経験

◆ スケジュール

第1回強化合宿（国内：オムロン鹿陽センター）
4月8日～4月13日
第2回強化選考合宿（国内：オムロン鹿陽センター）
4月28日～5月7日
＊高校男子西日本カップ大会参加
第3回強化合宿（国内：東京）　5月25日～5月31日
＊関東リーグ女子上位4チームとの試合
海外遠征（ヨーロッパ）　6月1日～6月15日
第4回強化合宿（国内：場所未定）　6月23日～6月30日
第5回強化合宿（国内：オムロン鹿陽センター）
7月7日～7月17日
広島国際大会（広島）　7月18日～7月21日
第8回アジア女子選手権大会（カザフスタン）
7月25日～8月5日
（WCアジア地区予選）
第6回強化合宿（国内：場所未定）　8月10日～8月12日
＊高校男子合同試合・関西学生リーグ上位チームとの試合
第7回強化合宿（国内：場所未定）　9月15日～9月28日
アジア大会（韓国：釜山）　9月29日～10月5日

◆ 攻撃力対策

1．ミスの減少＝個人プレースタイルの見直し
2．1対1（フェイントプレー強化）
3．速攻での得点力アップ（日本独自）
4．国際試合経験（国内外での試合数の強化）
＊高校男子・大学リーグとの連携・日本リーグ選抜

◆ ディフェンス力の強化

1．メンバーチェンジのないチーム完成の選手育成
　（DF→速攻→攻撃）
2．1の戦術の為の個人DF能力向上

女子日本代表選手選考合宿参加者名簿

2002. 4. 28~5. 7 熊本：オムロン

監督	西 窪 勝 広	にしくぼ かつひろ	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	黄 慶 泳	ふぁん きょんよん	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	栗 山 雅 倫	くりやま まさみち	(財)日本ハンドボール協会

	氏名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	出身大学	出身高校	出身地
GK	山下 美智子	やました みちこ	—	1976. 1. 5	177	—	宣 真 高	熊本県
〃	飛田 季実子	ひだ きみこ	ソニーセミコンダクタ九州	1977. 9.26	168	—	福島女高	大阪府
〃	田 中 麻 美	たなか まみ	北 國 銀 行	1978. 1. 5	172	大体大	洛 北 高	京都府
〃	浅井 友可里	あさい ゆかり	広島メイプルレッズ	1979.10. 4	177	—	四天王寺	大阪府
CP	青戸 あかね	あおと あかね	広島メイプルレッズ	1974. 7.11	164	東女体	山陽女高	広島県
〃	河本 千寿子	かわもと ちずこ	〃	1976. 3.22	172	—	山陽女高	山口県
〃	田中 美音子	たなか みねこ	ソニーセミコンダクタ九州	1975. 1.14	160	—	四天王寺	大阪府
〃	大 石 真 代	おおいし まさよ	オ ム ロ ン	1976.12. 7	170	武庫川	暁 高 校	三重県
〃	佐久川ひとみ	さくがわ ひとみ	〃	1977. 7.21	170	—	浦 添 高	沖縄県
〃	藤 長 靖 子	ふじなが やすこ	〃	1978. 4. 7	157	—	岩 国 商	山口県
〃	金 城 晶 子	きんじょう あきこ	〃	1978. 4.19	173	武庫川	那覇西高	沖縄県
〃	坂 元 智 子	さかもと ともこ	〃	1978. 9.12	171	—	夙川学院	兵庫県
〃	屋 嘉 洋 乃	やか ひろの	〃	1980. 4.26	162	—	那覇西高	沖縄県
〃	村 上 麻 美	むらかみ あさみ	北 國 銀 行	1977. 7.31	168	筑波大	福井商高	福井県
〃	中 村 尚 美	なかむら なおみ	〃	1978.12. 7	167	武庫川	福井商高	福井県
〃	近 藤 智 重	こんどう ちえ	〃	1979. 3.31	174	—	倉敷中央	岡山県
〃	稲 吉 希 穂	いなよし きほ	シ ャ ト レ ー ゼ	1977. 9.28	160	—	水海道二	茨城県
〃	藤 浦 美 絵	ふじうら みえ	〃	1975.12.19	171	—	夙川学院	兵庫県
〃	山 崎 理 恵	やまざき りえ	〃	1977.11. 4	157	—	福島女高	大阪府
〃	早 船 愛 子	はやふね あいこ	〃	1980. 1.23	165	筑波大	氷 見 高	富山県
〃	橋 本 寛 子	はしもと ひろこ	〃	1979.12.25	162	東女体	埼 玉 栄	埼玉県
〃	菅 谷 美 奈	すがや みな	ブ ラ ザ ー 工 業	1979. 4.22	175	—	養老女商	岐阜県
〃	羽出重 真紀	はでしげ まき	〃	1977. 3.28	165	—	仁愛女子	石川県
〃	谷 口 尚 代	たにぐち ひさよ	筑 波 大 学	1982. 5. 9	183	—	福井商高	福井県
〃	森本 美奈子	もりもと みなこ	〃	1980. 9.17	170	—	宣 真 高	大阪府
〃	岡 崎 美 樹	おかざき みき	東京女子体育大	1982. 9.25	170	—	文大杉並	東京都
◆	安心院 祐子	あじみ ゆうこ	オ ム ロ ン	1979. 4. 9	162	—	大分鶴崎	大分県
◆	冨 田 有 美	とみた ゆみ	〃	1979. 5. 7	169	武庫川	福井商高	福井県

◆印は、練習生として参加

NTS参加選手の体力水準と体力評価

NTS運営委員会
（スポーツ医科学委員会代表）　田中　守

今回は、平成13年度の夏に開催された第2回NTSブロックトレーニング（全国9ブロック）の際に行われた体力測定の結果についてご報告致します。

1．体力測定項目

以下に、測定項目と方法を示しましたが、測定検者と計測機器、測定場所などの条件が異なることから測定値に誤差があることを予めご了解下さい。

(1)30ｍ走：スタンディングスタートからの30ｍダッシュのタイムをストップウオッチで計測。

(2)立５段跳：両足ジャンプから片足交互ジャンプ５回の跳躍距離を計測。

(3)長座ハンドボール投：両足を肩幅以内に開いた長座位でのハンドボール投げによる遠投距離として、踵からボール落下点までの距離を計測。

(4)背筋力：文部科学省の体力測定方法と同様。

(5)握力（左右）：文部科学省の体力測定方法と同様。但し、左右を計測。

2．体力測定結果（体力水準）

表１に、体力測定結果として平均値と最高値を示しました。小学生、中学生、高校生を男女ごとに表し、表中の優秀選手は各ブロックで選ばれセンタートレーニングに推薦された選手を、その他選手は優秀選手を除く選手を表しています。また、表中の評点は次に示す表２の10段階評価に基づくもので、50点満点となります。なお、＊印は優秀選手とその他選手の各平均値間に統計処理上の有意な差が認められたことを表し、＊印が多いほどその有意水準（差の有無の確率）が高いことを示します。以下に、結果を要約しました。

(1)小学生においては、ハンドボール技能に優れる選手が運動能力にも優れていることが示唆されます。体力の総合評価である評点が小学生の優秀選手において最も高い得点を示していることからも同様のことが窺えます。特に、女子の優秀選手は走力と跳力に優れ、男子の優秀選手は投力や筋力も含めた総合能力に優れていることがわかります。なお、女子は思春期を５～６年生で迎えるためか、男子の方がすべての項目において

表１　体力測定結果の平均値比較と最高値

性別	年代	分類	人数（名）	身長（cm）	体重（kg）	30ｍ走（秒）	立5段跳（ｍ）	長座投（ｍ）	背筋力（kg）	握力(左)（kg）	握力(右)（kg）	評点50点（点）
男子	高校	優秀選手	32	179.0	68.9	4.33	12.5*	22.5*	156.5	47.4	50.7	29.8
		その他選手	11.9	176.5	67.1	4.35	12.2	20.7	144.8	46.2	49.9	27.3
		最高値	計151	190.0	105.0	3.90	15.0	28.9	238.0	70.0	74.3	49.0
	中学	優秀選手	26	175.5**	62.6	4.48	11.7**	23.0***	141.9**	43.4*	46.2*	32.5***
		その他選手	98	170.5	59.4	4.55	11.2	19.0	120.3	40.1	44.5	26.2
		最高値	計124	189.0	26.5	4.08	13.1	32.3	225.0	61.0	62.0	39.0
	小学	優秀選手	17	155.1**	43.9	5.06*	9.8***	15.8***	77.3	25.7**	27.3**	33.6***
		その他選手	84	149.4	41.8	5.26	9.1	13.1	67.2	21.6	23.6	26.6
		最高値	計101	170.0	65.0	4.59	11.1	22.0	141.0	37.8	35.0	48.0
女子	高校	優秀選手	29	167.1***	57.0	4.80**	10.6**	16.2	105.1	30.3	35.0	31.2***
		その他選手	108	162.6	55.9	4.96	10.1	14.5	94.7	29.4	32.9	25.9
		最高値	計137	176.0	73.0	4.50	11.6	22.0	177.0	42.0	55.0	41.0
	中学	優秀選手	25	164.1***	53.2**	4.89*	10.1**	14.0***	90.8**	30.2	32.2	31.6***
		その他選手	106	159.0	49.9	5.07	9.6	12.0	75.3	27.3	30.1	25.3
		最高値	計131	173.0	67.0	4.44	11.3	19.4	160.0	46.0	48.0	45.0
	小学	優秀選手	16	152.2	41.6	5.14***	9.2***	11.8	56.8	22.2*	24.1*	32.3***
		その他選手	46	148.8	40.9	5.43	8.6	10.5	55.1	19.2	21.2	25.8
		最高値	計62	165.0	59.0	4.83	10.0	16.1	87.0	29.1	31.8	42.0

＊$p<0.05$　＊＊$P<0.01$　＊＊＊$p<0.001$

若干上回っています。

(2)中学生においても、優秀選手が運動能力に優れていることがわかりますが、評点の平均点は小学生に比べ若干低下しています。このことは、高度なハンドボール技術が身につきはじめてきていることを示唆しています。また、身長が優秀選手の重要な用件の一つになることがわかります。一方、この時期は思春期を過ぎ男女の特徴が如実に現れる中学2～3年生ですので、形態（からだの大きさ）のみならず筋力、筋パワーについて大きな男女差が見られます。

(3)高校生になると、女子においては筋力を除いて中学生と同様の傾向を示しましたが、男子においては跳力と投力に若干の有意差がみられるものの、その他の項目および評点に有意差が見られなかったことから、運動能力の発達以上にハンドボール技能の上達が考えられ、このことが優秀選手の要件となっていることが示唆されます。しかし、本結果は男女ともに高校期後半から徹底的に高められる筋力と筋パワーのトレーニング不足をも示唆しており、ハンドボール技能に優れる優秀選手の体力トレーニングの必要性が示唆されました。

3．種別・男女別体力測定評価表

表2には、今回の体力測定全データから算出した平均値と標準偏差値を基に、5段階ならびに10段階区分による評価基準値を示しました。これは、NTSに推薦された各県の優秀選手を母数にしていますので、全国のすべてのハンドボール選手にとっては評価基準が高くなっていること（図1）をご了解の上、ご活用下さい。

図1　体力評価法（5段階区分）の考え方

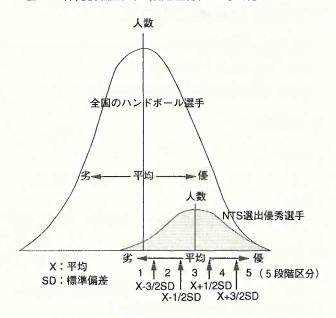



表2　年代別・男女別体力測定評価表（5段階・10段階）

5段階	10段階	高校男子 30m走（秒）	高校男子 5段跳（m）	高校男子 長座投（m）	高校男子 背筋力（kg）	高校男子 握力（kg）	中学男子 30m走（秒）	中学男子 5段跳（m）	中学男子 長座投（m）	中学男子 背筋力（kg）	中学男子 握力（kg）	小学男子 30m走（秒）	小学男子 5段跳（m）	小学男子 長座投（m）	小学男子 背筋力（kg）	小学男子 握力（kg）
	10															
5		3.92	14.09	28.16	205.52	61.34	4.12	12.99	27.51	186.26	56.65	4.60	10.72	19.56	111.42	34.48
	9															
		4.02	13.64	26.40	191.05	58.08	4.22	12.57	25.60	170.91	53.19	4.76	10.33	18.06	100.75	31.66
	8															
4		4.13	13.19	24.64	176.57	54.81	4.33	12.15	23.69	155.56	49.73	4.91	9.94	16.56	90.07	28.83
	7															
		4.24	12.74	22.87	162.10	51.54	4.43	11.74	21.78	140.21	46.27	5.07	9.56	15.06	79.39	26.01
	6															
3		4.34	12.29	21.11	147.62	48.28	4.54	11.32	19.87	124.86	42.81	5.23	9.17	13.56	68.72	23.19
	5															
		4.45	11.84	19.35	133.15	45.01	4.64	10.91	17.97	109.51	39.35	5.38	8.78	12.06	58.04	20.37
	4															
2		4.56	11.40	17.58	118.67	41.75	4.75	10.49	16.06	94.16	35.89	5.54	8.40	10.56	47.36	17.55
	3															
		4.67	10.95	15.82	104.20	38.48	4.85	10.07	14.15	78.81	32.43	5.70	8.01	9.06	36.69	14.73
	2															
1		4.77	10.50	14.06	89.72	35.21	4.96	9.66	12.24	63.46	28.97	5.86	7.62	7.56	26.01	11.91
	1															

5段階	10段階	高校女子 30m走（秒）	高校女子 5段跳（m）	高校女子 長座投（m）	高校女子 背筋力（kg）	高校女子 握力（kg）	中学女子 30m走（秒）	中学女子 5段跳（m）	中学女子 長座投（m）	中学女子 背筋力（kg）	中学女子 握力（kg）	小学女子 30m走（秒）	小学女子 5段跳（m）	小学女子 長座投（m）	小学女子 背筋力（kg）	小学女子 握力（kg）
	10															
5		4.42	11.52	20.68	149.52	43.24	4.57	11.06	16.98	119.25	40.22	4.66	9.99	15.82	84.13	30.48
	9															
		4.55	11.19	19.22	136.36	40.30	4.68	10.72	15.82	108.84	37.46	4.84	9.67	14.58	76.98	28.09
	8															
4		4.68	10.85	17.75	123.21	37.35	4.80	10.37	14.66	98.44	34.71	5.01	9.36	13.33	69.83	25.71
	7															
		4.80	10.52	16.29	110.05	34.41	4.92	10.02	13.50	88.03	31.96	5.18	9.05	12.08	62.68	23.32
	6															
3		4.93	10.19	14.83	96.89	31.46	5.04	9.68	12.34	77.63	29.21	5.36	8.74	10.84	55.52	20.94
	5															
		5.06	9.85	13.37	83.73	28.52	5.15	9.33	11.18	67.22	26.46	5.53	8.43	9.59	48.37	18.56
	4															
2		5.18	9.52	11.91	70.58	25.57	5.27	8.99	10.02	56.82	23.71	5.71	8.12	8.34	41.22	16.17
	3															
		5.31	9.19	10.45	57.42	22.63	5.39	8.64	8.86	46.41	20.96	5.88	7.80	7.10	34.07	13.79
	2															
1		5.44	8.85	8.99	44.26	19.68	5.51	8.30	7.70	36.01	18.21	6.05	7.49	5.85	26.92	11.41
	1															

中学校活動シリーズ

野木町立野木中学校（栃木県）

① 学校名、指導者名、所在地

栃木県野木町立野木中学校

顧問　宮本ひろ子　大久保清一

栃木県下都賀郡野木町大字潤島800番地１

② 部員数

●男子

３年生…10名　２年生…７名　１年生…７名

●女子

３年生…13名　２年生…９名　１年生…３名

③ 部創設時期

昭和57年４月、現在の本校校長・池澤渥先生の提案により、男女のハンドボール部が新設される。

初代の秋山道治監督は、指導力があり、研究熱心であった。確固たる信念のもと、猛練習を重ね、早くも創部２年目の県新人大会で、男女共優勝を成し遂げる。その後、本校を転出する平成２年度まで、県総合体育大会・男子７連覇の偉業を達成する。また、卒業後、高校、大学及び実業団で活躍する多くの逸材を育てるなど、その業績は偉大であった。

チームはその後、平成６年度を最後に、数年間低迷していたが、平成12年度より、徐々に復活の兆しが表れてきている。

〈創部からの実績〉

年度	大会	男子	女子
昭和58年度	県新人大会	男子優勝	女子優勝
昭和59年度	関東大会県予選	男子優勝	女子優勝
昭和59年度	県総合体育大会	男子優勝	女子優勝
昭和59年度	関東中学校ハンドボール大会		女子第３位
昭和59年度	県新人大会	男子優勝	女子準優勝
昭和60年度	関東大会県予選	男子優勝	女子優勝
昭和60年度	県総合体育大会	男子優勝	女子優勝
昭和60年度	県新人大会	男子準優勝	
昭和61年度	関東県予選大会	男子優勝	
昭和61年度	県総合体育大会	男子優勝	女子準優勝
昭和61年度	県新人大会	男子準優勝	
昭和62年度	関東県大会予選	男子優勝	女子準優勝
昭和62年度	県総合体育大会	男子優勝	女子優勝
昭和62年度	関東中学校ハンドボール大会	男子第３位	
昭和62年度	県新人大会	男子優勝	女子優勝
昭和63年度	関東大会県予選	男子優勝	女子準優勝
昭和63年度	県総合体育大会	男子優勝	
昭和63年度	県新人大会	男子優勝	女子準優勝
平成元年度	関東大会県予選	男子優勝	女子準優勝
平成元年度	県総合体育大会	男子優勝	女子準優勝
平成元年度	県新人大会	男子優勝	女子優勝
平成２年度	関東大会県予選		女子優勝
平成２年度	県総合体育大会	男子優勝	女子準優勝
平成２年度	県新人大会		女子準優勝
平成３年度	関東大会県予選		女子準優勝
平成３年度	県総合体育大会		女子準優勝
平成３年度	県新人大会		女子準優勝
平成４年度	県新人大会	男子準優勝	
平成５年度	関東大会県予選	男子準優勝	
平成５年度	県総合体育大会	男子準優勝	
平成５年度	県新人大会		女子準優勝
平成６年度	関東大会県予選	男子優勝	女子優勝
平成６年度	県総合体育大会	男子準優勝	女子優勝
平成７年度	県新人大会		女子優勝
平成11年度	県新人大会	男子優勝	
平成12年度	関東大会県予選	男子優勝	
平成12年度	県新人大会		女子準優勝
平成13年度	関東大会県予選	男子３位	女子優勝
平成13年度	県総合体育大会		女子優勝

④ 指導に当たって特に留意されている事項

全員の部員が、中学校から初めてハンドボールを行うので、ボールの持ち方、パス、キャッチから練習を始める。シュートや１対１、２対２、速攻などの基本的な練習に重点を置いて指導している。

また、練習の時には、「挨拶、返事、大きな声」や、きびきびとした行動などを特に意識させて取り組ませている。普段の学習面や生活面においても、きちんとした態度で生活するよう意識させている。

⑤ 部員確保の具体的取り組み事項など

部員の確保については、特別な勧誘などは行っていない。しかし、現１年生女子が３名なので、何らかの方策を講じ

なければならないと思っている。

⑥ 地域社会・近隣小・中・高等学校との連携や関わり方について

・地元の日本リーグ日立栃木（今年度で廃部予定）との関わり

日立栃木主催の現１年生対象のＮＴＳ（実技講習会）、県協会主催で日立の選手と共に、実技講習会なども実施されてきた。また、毎年日立栃木主催の中学生１年生大会も行われている。さらに、リーグ戦観戦・応援も行っている。このように、日立の選手と県内の中学生・高校生の部員との交流が、頻繁に行われている。

・近隣の小・中・高校生との関わり

近隣の中・高校生とは、練習試合・強化練習会・実技講習会などで交流を深めている。中学校卒業後も高校、大学までハンドボールを続ける部員も多い。小学生との連携がほとんどないので、今後どのような関わりを持つべきかを検討していきたいと考えている。

⑦ 練習メニュー

・ランニング　２km
・フットワーク
・ランニングパス
・シュート練習
・２対２
・３対３
・６対６
・ＤＦからの切り返し
・ゲーム　男子対女子

⑧ 小・中学生などの若年層の競技人口拡大に向けての諸方策

生徒数の減少で、各中学校において部の整理を行わなければならない状況にあり、栃木県内のハンドボール部も例外ではない。実際、県内の中学校だけでも最盛期と比較すると、男女あわせて11チームも廃部になっている。競技人口を拡大するためには、小学生からハンドボールを競技として行うことが対策の一つであると思われる。本校の近隣の栃木市では毎年２回、市内の小学生の大会が実施されている。そして、中学校・高等学校・大学や実業団まで少しでも多くの選手が続けられるように、ハンドボールを取り巻く環境が整えられることが必要であると思う。また、もっとハンドボールの楽しさや醍醐味をマスコミなどで宣伝するのも必要ではないかと思う。

⑨ ハンドボール文化を日本の中で定着させるにはどのような取り組みが必要か

ハンドボール文化を定着させるためには、まず、ハンドボールの頂点、日本リーグのチームを企業努力、または地域の努力により、これ以上減らさないようにすることが第一であると考えている。また、指導者の確保も重要であるが、ハンドボール経験者が指導者としてうまく配置されていないのが現状である（小学校にも経験者は結構いる）。さらに、ハンドボールの他の競技にはないよさをもっともっとアピールし、普及に努めなくてはならないのではないか。

大切な地方への発信

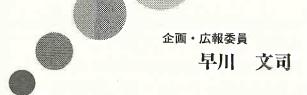
企画・広報委員
早川　文司

中国、台湾、韓国を迎えてのアジアナショナルサーキットで始まった02年度。アテネ五輪の足音が次第に大きく聞こえ始めてくるし、女子は来年の世界選手権予選、秋にはアジア大会と世界へはばたく重要なスケジュールが相次ぐ。

一方で、日本リーグはどうなるのかといった難題も突きつけられている。いわば胸突き八丁の02年度と言っても過言ではあるまい。

そうした中、事業計画を眺めていて気になったことがあった。「7．企画・広報に関する事業」の《広報》の「2．メディアとの交流拡大」である。【重点施策】で「2．メディアとの定期懇談会の実施　イ．東京記者クラブハンドボール分科会との懇談　ロ．NHKとの懇談…とある。

現在、日本リーグの加盟チームを見ても、地方が多いのが実情だ。メディアの取り上げ方でもそれぞれの地元の扱いは中央の比ではないほど派手だ。これは新聞、テレビのいずれにもいえる。プレーオフにしても「おらが街のチーム」取材に駆けつける。それだけ各チームが地方に密着している、地方に認知されているという証明だろう。

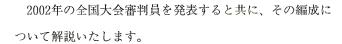
だからこそ言いたい。日本協会のトップが全国の記者クラブがある（言い換えれば日本リーグのホーム）地域に出向いての懇談会を持ってもいいのではなかろうか。毎年とはいわない。２年に１度、３年に１度でもいい。それぞれ地方の注文を聞くとか、逆に現状説明でもいい。とにかく地方と意見交換をすることでプラスになることも多いだろうし、ハンドボールに対する意識、距離がさらに近づくはずである。

東京でするなといっているのではない。それはそれでいい。しかし、それだけで終わっていてはいけないのだ。プロサッカーＪリーグでもチェアマンとの巡回懇談会を開いている。そうすることによって、親近感が増すことは間違いない。

中央マスコミとコミュニケーションを図っていれば一の時代ではない。各地域協会との密接な連携も当然ながら必要だが、同時に各地域メディアとの連係も欠かせないのではないだろうか。

スポーツ界は厳しい冬の時代にすっぽり覆われている。企業スポーツが岐路に立たされている今こそ、地域に愛されるチームづくりが大切。だからこそ、積極的に地方への発信が求められると思う。

2002年
全国大会審判団編成について

審判部長　斉　藤　　実

2002年の全国大会審判員を発表すると共に、その編成について解説いたします。

従来の、単に各ブロックに割り当てる数字合わせ的な編成と、A級受験のための条件を満たすレフェリー集合体を改めて、力のあるレフェリーを登用することを第一の目的としました。その手順は次の通りであります。

①各都道府県審判部長よりNo.1～No.3までをブロック審判長に推薦する。

②各ブロック審判長は、その推薦されたレフェリーにブロック内序列を付けて、日本協会審判部長に提出する。

③各都道府県No.1レフェリーはいずれかの大会にノミネートする。

④各ブロック上位ランク者をノミネートする。

⑤大会開催地の経費軽減を考え、できうる限り開催ブロック所属レフェリーを優先する。

さらに、常に自己研鑽に務めるという観点から、これにノミネートされたレフェリー及び大会審判長・副審判長は7月に予定しているトップレフェリー研修会に参加することを義務づけました。もし参加しなかった場合には、全国大会のノミネートを外すことになります。

こうしたステップを踏みながら、都道府県内並びにブロック内で競争を演じ、レフェリー全体のレベルアップを図ることと、全国大会がレベルの高いレフェリーで運営されることを意図いたしました。ノミネートされたレフェリーは自己満足せず、さらに研鑽を積んで素晴らしい笛を吹くよう努力を積んでいただきたい。

最近大会審判のために職場を離脱することが非常に困難になってきました。各都道府県審判長に発表した直後から変更希望が沢山まいりました。現在も修正中ではありますが、4月13日現在の状態で発表させていただきます。

2002年 全日本大会審判団

大 会 名	開催地	期 日	審 判 員 氏 名
第53回 全国高等学校 総合体育大会	茨城県	8／1 ～7	◎細沢 覚 ○大橋 幹正 ○細谷 安司 ○宮沢 則夫 ○大鐘 雅善 ○松本 宏 ○大東 秀明 ○新谷 幸司 浜田 浩和・小笠原久郎（東 京） 俵 英生・村瀬 清史（北海道） 多田 和生・中舘 豊（岩 手） 古関 直樹・山本 力（秋 田） 福田 弘・冨田 拓（茨 城） 安達 和雄・長谷川 剛（茨 城） 山下 勝俊・四元 俊一（栃 木） 譲原 昭・栗田 与一（群 馬） 小林 一夫・土屋 雅男（埼 玉） 野平健二郎・相坂 賢将（埼 玉） 北嶋 浩・安田 寛（東 京） 江原 秀一・永春 文義（東 京） 本田 義昭・安井 定徳（神奈川） 浅野 昭彦・荻野 俊夫（神奈川） 服部 博幸・中沢 徹（長 野） 北中 弘規・山口 和博（石 川） 浅野 幹也・神谷 真次（愛 知） 池渕 智一・檜崎 潔（岐 阜） 佐川 正巳・矢野 勝弘（奈 良） 原井 進・角 直樹（山 口） 浜角 智之・山本 淳（島 根） 田中 達男・川田 哲也（愛 媛） 金子 弘明・児玉浩三郎（長 崎） 仲里 貢・中地 健三（沖 縄）
第７回 ジャパン オープン トーナメント	静岡県	8／7 ～11	◎斉藤 実 ○板倉 孝雄 ○内藤 岳 ○近藤田都哉 小林 一夫・土屋 雅男（埼 玉） 加藤 孝雄・松本 和行（千 葉） 北嶋 浩・安田 寛（東 京） 江原 秀一・永春 文義（東 京） 関口 直人・新谷 幸司（山 梨） 藤井 善彦・竹野 誠司（福 井） 西尾 公彦・山崎 昭彦（静 岡） 大岩 広人・渡辺 紀之（静 岡） 浅野 幹也・神谷 真次（愛 知） 丸山 竜司・船谷 真和（三 重） 楓 健児・渡辺 貞彦（愛 知） 大和田浩史・河合 千丈（愛 知） 能波 羊二・井上 清光（滋 賀） 小山 勉・佐路 清隆（京 都） 矢本 康成・神野 利雄（兵 庫）
第31回 全国中学校 体育大会	和歌山県	8／21 ～25	◎溝口 博一 ○横山 和哉 仲田 稔・植村 彰（千 葉） 三浦 力・高田 智史（北海道） 尾形 俊賢・佐藤 健（宮 城） 楓 健児・渡辺 貞彦（愛 知） 能波 羊二・井上 清光（滋 賀） 矢本 康成・神野 利雄（兵 庫） 佐川 正巳・矢野 勝弘（奈 良） 杉山 孝広・渡辺 一晶（香 川） 稲葉 昌治・森本 泰夫（鳥 取） 野島 祥之・石原 秀和（岡 山） 加藤 晃・白川 裕隆（山 口） 山口 弘夫・岩上浩一郎（富 山）
第43回 全日本実業団 選手権	福井県	9／10 ～15	◎喜井 美雄 ○中山 光広 滝口 孝之・浜野 徹（青 森） 斉藤 仁宏・田川 卓史（福 島） 山口 弘夫・岩上浩一郎（富 山） 大石 克哉・桜打 佳浩（富 山） 藤井 善彦・竹野 誠司（福 井） 浅野 幹也・神谷 真次（愛 知）
第57回 国民体育大会	高知県	10／25 ～31	◎斉藤 実 ○竹村 久晴 ○中川 利彦 ○清水 修 藤井 俊朗・大熨 嘉彦（岡 山） 武智 誠治・松原 誠起（愛 媛） 西尾 公彦・山崎 昭彦（静 岡） 久保 博・高野 修（広 島） 高 俊文・奥川 和永（広 島） 田中 達男・川田 哲也（愛 媛） 多田 宣行・真嶋 洋二（香 川） 長谷部次雄・弘田 陸仁（高 知） 佐藤 公美・小川 昌志（徳 島） 水上 秀憲・児島 悟（福 岡） 竜 弘美・貞島 早苗（佐 賀） 山下 知紀・牧 均（熊 本） 亀井 一寿・堀川 智宏（大 分） 石原ロ秀樹・渡辺 正徳（宮 崎） 奥山 誠恒・海江田貴嗣（鹿児島） 野本 孝・森 実岳史（愛 媛） 成岡 浩・宮崎 光一（高 知）
第45回／38回 全日本学生 選手権大会	大阪府	11／12 ～17	◎佐野 和夫 ○ 家永 昌樹・福島 亮一（大 阪） 浜野 大助・阿部羅大造（石 川） 小山 勉・佐路 清隆（京 都） 浅井 隆志・岸本 光夫（大 阪）
第54回 全日本総合 選手権大会	愛知県	12／10 ～14	◎斉藤 実 ○板倉 孝雄 審査指導委員会にて検討し発表（10月）
第11回 JOCジュニア オリンピック カップ	大阪府	12／24 ～27	◎溝口 博一 ○北山 隆 浜田 浩和・小笠原久郎（東 京） 能波 羊二・井上 清光（滋 賀） 小林 弘和・早瀬 司（滋 賀） 小山 勉・佐路 清隆（京 都） 佐藤 晃・川勝 宏治（京 都） 浅井 隆志・岸本 光夫（大 阪） 伊藤 保仁・尾崎 浩祥（大 阪） 矢本 康成・神野 利雄（兵 庫） 松森三樹男・大蔵 太（兵 庫） 佐川 正巳・矢野 勝弘（奈 良） 秦 隆二・秦 伊織（奈 良） 梅田 淳夫・横山 和哉（和歌山）
第25回 全国高等学校 選抜大会	富山県	2003年 3／22 ～28	◎細沢 覚 ○大橋 幹正 ○庄司 勝三 ○中山 光広 ○徳前 紀和 ○光安三津夫 仲田 稔・植村 彰（千 葉） 亀山 耕司・水谷 省一（北海道） 安孫子 功・高橋 善浩（山 形） 中村 勝彦・斉藤 史洋（神奈川） 中村 明裕・八十山 修（石 川） 服部 博幸・中沢 徹（長 野） 小川 浩・小林 智隆（新 潟） 山口 弘夫・岩上浩一郎（富 山） 藤井 善彦・竹野 誠司（福 井） 大石 克哉・桜打 佳浩（富 山） 高田 和英・田村 裕志（石 川） 矢田 晃章・田中 宏育（富 山） 屋敷 吉英・小川 友康（富 山） 浅野 幹也・神谷 真次（愛 知） 伊藤 保仁・尾崎 浩祥（大 阪） 浜角 智之・山本 淳（島 根） 田中 達男・川田 哲也（愛 媛） 仲里 貢・中地 健三（沖 縄）

競技規則(審判)に関する事業

1. 平成13年度登録公認審判員数 2427名

2. 公認審判員上級審査結果

◇A級審査は、全日本実業団選手権大会（熊本県）をモデルに、B級は北地区（山形県）・東地区（千葉県）・中1地区（三重県）・中2地区（島根県）・西地区（佐賀県）の5地区にて実施。結果は下記の通り。

	A級	B級
申請者数	19	46
書類不備	0	0
欠席者	7	2
筆記不合格者	0	0
実技不合格者	2	13
体力不合格者	0	−
合格者数	10	31

◇レフェリーコース受験状況

前期　期　日　8月11日～13日　甲府市にて実施
　　　モデル　関東・東海・北信越地区男子高校強化練習会兼デュパー杯争奪
後記　期　日　3月27日～29日　名古屋市にて実施
　　　モデル　東海・近畿男女高校強化練習会
結果は下記の通り。

申請者数	15
欠席者数	2
B級認定者数	5
C級認定者数	8

◇実業団レフェリーコース受験状況

期　日 2月15日・16日　福井市にて実施
モデル　実業団チャレンジカップ
結果は下記の通り。

申請者数	4
欠席者数	0
B級認定者数	4
C級認定者数	0

3. 講習会・研修会及び審判員評価

◇講習会

対象者　日本リーグ担当レフェリー・一般希望者
内　容　教本に基づいた講義
　　　　体力テスト（クーパー走）・VTRテスト

・関東地区日本リーグ講習会　5月13日　三郷市
・東海地区日本リーグ講習会　2月9日　名古屋市
・北信越地区日本リーグ講習会　7月8日　高岡市
・中国地区日本リーグ講習会　2月9日　徳山市
・四国地区日本リーグ講習会　3月27日　松山市
・九州地区日本リーグ講習会　4月8日　福岡市

◇日本リーグへの新ルール導入講習会

・東北地区新ルール講習会　10月8日　盛岡市
・関東地区新ルール講習会　9月23日　新座市
・東海地区新ルール講習会　9月23日　名古屋市
・北信越地区新ルール講習会　10月7日　金沢市
・近畿地区新ルール講習会　10月20日　大阪市
・中国地区新ルール講習会　10月8日　広島市
・九州地区新ルール講習会　9月30日　山鹿市

◇研修会

（財）大崎企業スポーツ事業研究助成財団より、100万円の助成を得て実施。

期　日　7月26日～28日
会　場　広島市東区スポーツセンター・広島経済大学
対　象　日本リーグ担当レフェリー・
　　　　トップレフェリー
モデル　広島国際大会・湧永製薬チーム・日新製鋼チーム
内　容
座学（講演・ペーパーテスト・VTRによる研究・技術指導者との討論会・国際大会レフェリーのチェック）
実技（ゲーム運営実技・技術と反則の見方・体力テスト）

◇審判員評価

・全国高校総体参加審判員評価（熊本県）
　審査指導委員2名派遣
・全日本総合選手権男子大会審判員評価（東京都）
　審査指導委員3名派遣

・全日本総合選手権女子大会審判員評価（千葉県）
審査指導委員3名派遣

4. 会議

・審判審査指導委員会
期　日　9月30日
場　所　名古屋市
内　容　A・B級受験状況及び審査結果の検討
レフェリーコース前期の受験状況報告
総合選手権大会審判員のノミネート
プロジェクト21に対する検討

期　日　1月25日
場　所　東京渋谷区青少年センター
内　容　A級受験者における検収結果の検討及びA級最終審査
14年度A・B級受験申請者書類審査
審判部合同会議準備

・審判部合同会議
期　日　1月26日・27日
場　所　東京渋谷区青少年センター
対　象　審判部長・審査指導委員・各ブロック審判長・各連盟審判長・競技規則研究委員長・国際委員長・日本リーグ審判部長・総務委員長及び委員
内　容　13年度諸活動の総括
14年度諸活動の検討

5. 審判員の海外派遣実績

・IHF登録審判員
浜田浩和・小笠原久郎
仲田　稔・植村　彰
武智誠治・松原誠起

・AHF登録審判員
藤井俊朗・大熨嘉彦
家永昌樹・福島亮一

・東アジア大会
期　日　5月19日～27日
場　所　大阪市
派遣審判　浜田浩和・小笠原久郎

・世界ビーチハンドボール選手権大会
期　日　8月22日～25日
場　所　本庄市
派遣審判　浜田浩和・小笠原久郎
仲田　稔・植村　彰

・世界男子選手権大会アジア予選
イランで開催の予選に、浜田浩和・小笠原久郎がノミネートされたが、連絡が遅く派遣できず。

6. その他

・全日本大会審判団編成の改革
①各都道府県審判長よりNo.1～No.3までをブロック審判長に推薦する。
②ブロック審判長はブロック内ランクを付けて日本協会審判部長に提出する。
③各都道府県No.1レフェリーは、いずれかの大会にノミネートする。
④各ブロック上位ランク者をノミネートする。
⑤大会開催地の経費節減を考え、できうる限り開催ブロック所属レフェリーを優先ノミネートする。
⑥ノミネートされたレフェリー及び大会審判長・副審判長は、トップレフェリー研修会に必ず出席しなければならない。

・競技規則書の作成
競技規則改正に伴い、新競技規則書を発行し、現在販売の過程である。
競技規則必携も編集の過程にあり、年内に販売する予定である。

・レフェリーウエアの制定
アシックス社の協力を得て、レフェリーウエアを制定し、全国スポーツ用品販売店にて販売を開始した。

・レフェリーバッグの販売
従来アシックス社製品を使用していたが、モルテン社からのレフェリーバッグに変えた。

・レフェリーのオフィシャルユニフォーム販売キャンペーン
レフェリーのオフィシャルユニフォーム取扱者が、バッジコーポレーションに変わったことで、販売キャンペーンを行い、販売を継続している。
キャンペーンのサービス品として「ハンカチ」を作成した。協会のグッズとしても用意できる。

連載

大塚文雄のハンドボール③

東京の大塚文雄先生が、指導者のいない高校生に向けてハンドボールの解説書を配布されているとの情報を得ました。せっかくの先生のご努力が少しでも多くの方々に理解されるよう、この解説書を大塚先生のご了解を得まして、機関誌に連載いたします。

0−6システムの連続写真による解説

【連続写真１】

基本的な０－６防御のフォーメーション（SWE-SUI）

－左45度のフローターに対する２人でのマーク（写真２～４）

－センタープレーヤーに対するディフェンスの三角形の形成（写真２～６）

【連続写真２】

基本的な０－６防御のフォーメーション

－ポストプレーヤーの遮断（写真１）

－センタープレーヤーに対する２枚ブロック（写真２～５）

【連続写真３】

攻撃的なセンター防御者

－センターの防御者は攻撃的に動く。45度の防御者はポストプレーヤーを遮断する

▼連続写真1

▼連続写真2

【連続写真４】

－右45度から中への１：１の動きの際はチェンジする。

【連続写真５】

－センターの防御者は単にフォローに行くような振りをする。（写真１・２）
そして２枚のブロックのために再び戻る。（写真３）

【連続写真６】

－２－４攻撃システム（ダブルポスト）の時には、先取り的、そして攻撃的な防御となる。（写真１・２）

－ボールを保持したプレーヤーが１：１の状況になったらすかさずに戻る。（写真３・４）

【連続写真７】

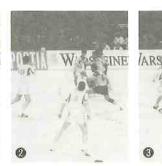
－センタープレーヤーがボールを保持しているときは、プレス防御となる。

▼連続写真３

▼連続写真４

▼連続写真５

▼連続写真６

▼連続写真７

・人・物・登・場・～そのとき活躍した人々～

人物登場。今回ご登場いただくのは。

菅間（かんま）　進　さん

昭和26年2月8日生

宮城県議会議員。そして宮城県ハンドボール協会副会長。

仙台二高でハンドボールを始め、学業との両立を成し遂げインターハイにも二度出場。その後立教大学へと進学し、オール立教などでも活躍。平成三年に仙台市議会選挙に初当選。平成七年には宮城県議会選挙に当選。昨年の国体の成功に尽力した功労者。

ハンドボールとの出会いについて教えて下さい。

昭和40年、宮城県立仙台第二高等学校に入学し、先輩に「インターハイに連れてってやるから」と勧誘され部室に入り込んだのがきっかけでした。中学時代は中途半端にスポーツをやっていたので、思いきり運動したいとも考えていましたし、当時、中学でハンドボールをやっていたところはなかったので、ハンディキャップが無いというのも魅力でした。実際にプレーしてみると、キャッチングがボールへの恐怖心からなかなかうまくならず苦労しました。ただ、体力はありましたので、シュート力があり、その面白さで部活を続けていくことができたと思っています。約束どおり、先輩たちがインターハイ（盛岡）に連れて行ってくれ、二回戦で優勝校の明星高校に大接戦で負けましたが、先輩たちの凄さには感服したものです。自分たちの学年も絶対にインターハイ出場を、とのかけ声で練習に励んだのも、一年生の時の充実した体験があったからだと思います。これも幸いに、三年生時の県高校総体で優勝し、広島インターハイに出場することができました。戦績は二回戦でまた三位入賞の明星高校と対戦、雨でぬかるんだグラウンドでの泥試合、4－10というロースコアのひどい試合で残念ながら返り討ちにあってしまいました。

当時のハンドボールはどのようなものでしたか。

今も残念ながらメジャーなスポーツとは言えない現状ですが、よりマイナーであったと思います。そんな中で、日本ハンドボール協会の機関誌や、たまにNHK教育放送で放映される全日本選手権の決勝戦などは目にしましたが、得ることができる情報は地方の高校生にとっては遠く、また憧れの存在でした。日本のトップレベルとの情報や技術の交流・遠征試合などできる環境には無かったと言えるでしょう。その努力をしたところが地方でも強化につながっていったのだと、振り返ってみれば思うものです。

そんな当時の憧れのチームは立教大学と芝浦工大で、それぞれにスーパースターがおりました。木野さんと近森さんでした。私は文系で、学部も社会学部がある立教大学に進学しようと思い、東北大会で準決勝敗退し国体出場が叶わなくなった日から猛勉強です。そのころの心境は、ずっと補欠でもいいから、立教でハンドボールができたら幸せだ…というものでした。実業団には大学の人気プレーヤーだった木野さん・近森さん・野田さんたちがそれぞれ、湧永・大崎・大同に入り、チーム人気と強化が図られていった時代でもあったでしょう。

ハンドボールを通して、忘れられない思い出はありますか。

良くても悪くても思い出には忘れられないものが数多くあります。高校時代は三年間の内２度インターハイに行くことが出来た事が忘れられません。受験校なので練習をサボったり、辞めたいと言う部員をまとめていく難しさを、キャプテンとして体験できたことは得難いものでした。

大学時代はほろ苦い思い出が多く、あの時代・あの社会情勢の中で青春していたんだと思い出します。昭和44年の入試戦線は東大が、安田講堂の攻防でテレビ中継までされた大学紛争で、開学以来初めて入試を行わなかったためになだれ現象が起き、各国公立・有名私大の難易度・競争率が一躍アップし、多くの受験生が影響を受けました。どうにか立教大学に入学し、憧れのハンドボール部でレベルの高さと大学体育会の厳しさにとまどいながらも一年生をしていましたが、キャンパスでは全共闘運動の結果的には最後の徒花が咲いた年であり、５月末頃からは立教大学もロックアウトとなり、異常な学生生活になってしまいました。そんな重苦しい中、８月に盛岡で行われた全日本選手権に「オール立教大学」で木野さん・野田さん両ＯＢを加え出場。栄えある優勝を勝ち取ることが出来ました。一年生として、通称「お茶汲み当番」でしたが、すばらしい思い出です。ひと夏、優勝旗を隣県である宮城県仙台出身の私が預かったことも忘れられません。

その後、学生運動の影響に翻弄されながら、また大学の体育会への考え方が変わったことなどから、実績ある部員の不足、絶対部員数の不足などで、私が四年生副キャプテン時の秋季一部リーグで最下位、入れ替え戦にも敗れ、栄光ある立教大学ハンドボール部が低落の一歩を歩んでしまったことは残念でなりません。

今の日本ハンドボールに望むことはなんですか。

少子化の時代、中学校単位ではメジャーな野球・サッカーですら部活動が出来なくなっています。さらに指導者の適性配置は学校体育では困難でもあります。他のスポーツ以上に「地域総合型スポーツクラブ」づくりに取り組んでいくべきだと思います。よくハンドボールはヨーロッパではサッカーに次いで人気のスポーツといいますが、ハンドボール先進国でのスポーツクラブの運営について私自身も学んで、少しでも地域に実践できればと考えています。

ミニミニカップ・学生ハンドボールプレシーズンマッチ2002 IN 関東

1 技術講習会開催される

関東学生ハンドボール連盟は男子８部(70チーム)、女子２部（17チーム）で構成されています。しかしながらその活動は様々で、大学から援助を受け、専門の指導者に指導を受けられるチームから、何から何まで自分たちの自主活動で地道に試合を行っているチームもあります。しかしながらハンドボールを愛する気持ちに変わりがないと信じています。

今春、関東学生ハンドボール連盟では指導者のいない大学に対する実技講習会を実施しました。平成14年４月１日㈪～３日㈬におこなわれた「ミニミニカップ・学生ハンドボールプレシーズンマッチ2002　ＩＮ　関東」(主催：関東学生ハンドボール連盟、後援：株式会社ミニミニ）の初日、東京都体育館を会場に２部女子チームから17名が参加しました。

講師は池田鉄哉氏（モントリオールオリンピック代表女子コーチ、元日本ビクター監督、芝浦工業大学ＯＢ)、コーチとして岩本真典氏（大崎電気、元日本代表、早稲田大学ＯＢ)、濱口靖氏(大崎電気、元世界学生代表、大阪体育大学ＯＢ）が後輩達への指導として快く協力して戴きました。

参加者も本格的な指導を受け大満足。更なる興味と魅力をハンドボールに感じたようでありました。今回の機会を生かし春リーグに向けて更なるトレーニングに励んでいただきたい。関東学生ハンドボール連盟では今後もこのような企画を計画・実施し、より多くのチームに対しての技術の伝達と、競技力の向上、ハンドボール文化の構築に寄与していきたいと考えております。

最後に、この講習会の意義をご理解いただき、会場提供にご協力いただきましたミニミニ企画さん及び岩本、濱口両選手の講師派遣に快くご協力いただきました大崎電気工業さんなどに感謝致します。またこれは、ハンドボール普及につながる事で、選手からも状況を聞いており、事情の許す限り今後も協力を惜しまないと話してくれた首藤監督に紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

【講習内容】

１）パスワーク
　セットオフェンスでのパスワーク
　速攻でのパスワーク
２）セットオフェンスの攻防
　２対２　３対３
３）速攻における攻撃（キーパーからのパス)
４）フェイントの習得
５）ディフェンスの考え方
６）キーパーの技術について

【講師のコメント】

●池田鉄哉氏

若い人とハンドボールをするのは楽しい。１時間半の時

間がアッという間に過ぎてしまい、まだまだ教えて足りない感じがする。このような講習会が多く開催されることを希望するし、その際には是非参加したいと思う。

●岩本真典氏

初め福地理事長から話をいただいたときは軽い気持ちで引き受けたが、参加者が真剣で積極的に取り組んでいる姿に感動した。活動の場は違ってもハンドボールを愛する気持ちは一緒で、僕自身が楽しい時間を過ごすことができた。このような形で学生ハンドボール界に恩返しができたらと思った。

●濱口靖氏

我々は恵まれた環境でハンドボールに取り組んでこられたのだと実感した。もし可能であれば大崎電気の仲間と希望する大学を回って指導に当たれたらと思う。

2　運営役員育成を目指して

大会を開催することは大変である。関東学生ハンドボール連盟でも少子化の影響、大学の部員数減少の中で学連委員の確保が困難になってきている。関東学連では昨年に引き続き㈱ミニミニの後援をいただき、平成14年4月1日(月)～3日(水)東京体育館、駒沢体育館、駒沢屋内球技場を会場に「ミニミニカップ・学生ハンドボールプレシーズンマッチ2002　ＩＮ　関東」(主催：関東学生ハンドボール連盟、後援：株式会社ミニミニ）を開催し、その位置づけの一つとして大会役員の育成を目指した。

参加校には次のような参加条件を科した。

・選任運営委員を必ず1名選出し、大会運営に参加する。
・原則、3日間の連続参加とする。ただし、シーズン前の大事な時期であることを考慮しチームが参加するメリットを最大限に設定する。
・会場設営、後片付け、オフィシャル等の大会運営に協力する。

運営委員はコート責任者、コート作成責任者、弁当担当者、ゴミ責任者等の役割分担を決め、各チームと協力して大会運営に当たった。今後は、彼らを中心にして春秋のリーグ運営ができたらとも考えている。また、次回からは今回の経験を生かして更に多くのチームが大会に参加できるように計画をしていきたい。

昨年の反省に基づき今年の大会では以下の目標を設定し、実行委員会を3回、学生実行委員会を1回開催して大会に臨んだ。

【大会目的】

・春シーズン前のチーム調整と確認。
・関東リーグの大会運営学生委員の育成。
・チームと審判員の交流・協議。
・新ルールに対するチームと関東学連審判員の研修。

【ゲーム形式について】

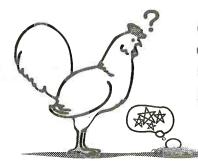
上記目的達成のために対抗戦型リーグ戦で1日2試合を行い、2日間で4試合を行い、下記の勝ち点、得失点差、により順位を決めた。最終日には上位4チーム、下位4チームによるトーナメントを行い順位を決定した。

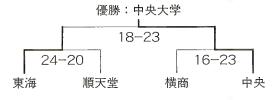
・勝ち点の計算方法

下位リーグチームが
上位リーグチームに勝った場合……………………＋2
上位リーグチームが
下位リーグチームに勝った場合（7点以上）……＋2
上位リーグチームが
下位リーグチームに勝った場合（7点未満）……＋1
引き分けた場合：下位リーグチーム………………＋1
上位リーグチーム………………±0
同リーグチーム同士……………±0
同リーグチームの試合で
勝った場合（5点以上）………＋2
（5点未満）………＋1
負けた試合（5点未満）………－1
（5点以上）………－2
下位リーグチームが
上位リーグチームに負けた場合……………………－1
上位リーグチームが
下位リーグチームに負けた場合……………………－2

・同点の場合は得失点差とする。

【結果】

予選リーグの得点と順位は次表のとおり。

	得点	得点	得点	得点	勝ち点	順位
明　治　大　学	順天 22-21	拓大 23-23	中大 11-20	横商 16-26	－3	8
東　海　大　学	中大 25-19	横商 28-15	順天 27-24	東理 31-20	＋7	1
中　央　大　学	東海 19-25	駒沢 41-14	明治 20-11	拓大 32-12	＋4	2
順天堂大学	明治 21-22	国武 25-18	東海 24-27	駒沢 30-18	＋2	4
拓　殖　大　学	明治 23-23	東理 34-27	中大 12-32	国武 18-34	±0	6
横浜商科大学	東海 15-28	国武 22-18	明治 26-16	東理 38-17	＋4	3
東京理科大学	拓大 27-34	駒沢 30-31	東海 20-31	横商 17-38	－8	9
国際武道大学	順天 18-25	横商 18-22	拓大 34-18	駒沢 20-30	－2	7
駒　沢　大　学	中大 14-41	東理 31-30	順天 18-30	国武 30-20	＋2	5

上位トーナメント（国際武道大は学校行事のため欠場）

3位決定戦
順天堂　19−15　横商

下位トーナメント

7位決定戦
拓殖　棄権　明治

★実行委員の声★

「ミニミニカップ・プレシーズンマッチ2002 IN　関東の運営委員を経験して」

順天堂大学ハンドボール部3年　トレーナー　森田裕一

私は普段はトレーナーとしてチームを支援する立場を担っているのですが、今回の大会では運営委員として大会運営に参加する機会を頂きました。何もかも初めての経験で戸惑うことも多くありましたが、各大学の諸先生方の多大なるご協力のおかげで大会を成功させることができたと思います。今回の経験で、今までの大会では私達は試合だけに集中していたのですが、それは大会運営をされている方達がいるからこそ成り立っているのだということを痛感しました。このような陰の勝利者達がいるからこそ、私達は試合ができ、勝利を目指すことができるのだということを忘れてはならないと思いました。

「プレシーズンマッチに運営参加して」

明治大学ハンドボール部主務　高林万里奈

今回ミニミニカップ学生ハンドボールプレシーズンマッチで運営委員として参加することは、私にとってとても良い体験となりました。

大会の運営は想像以上に仕事が多く、問題が次々と浮かび、大変なものでした。体育館を借りるところから試合の日程作成、コート準備等、一から全てをやらなければいけませんでした。そして決定事項をチームに伝える伝達係としての仕事もありました。自分の責任の大きさを感じながら仕事をこなしていった気がします。

私は今までハンドボールの大会に参加する時、会場の準備は全て揃っていて、日程も決められていました。そしてそれが当たり前のように感じていました。しかし、今回この運営委員を経験することで今まで当たり前に感じていたことの陰には、誰かが一生懸命準備をし、支えてくれていたことに気がつきました。私はこの経験を通じて、大会を運営していく難しさと今まで各大学で支えていただいた方への感謝という2つのことを感じました。今回で得ることができた経験を、今後また機会があれば、より成長して実行していきたいと思います。そしてこれは他大学との交流の場としても良い空間だと思いました。

平成14年度第5回ハンドボール研究集会要項

テーマ「ボール運動教材としてのハンドボール－その5－」

趣旨　平成10年度に発表された小学校新学習指導要領に、ハンドボールが「ボール運動」として初めて採用された。このことは、次のようなハンドボールの教材としての価値が認識されたためである。すなわち学校体育において、児童や生徒の体力・運動能力の低下が指摘されている昨今、ハンドボールは子どもたちの発育・発達を促すのに適していること。加えて、他のボール運動より、教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできるという諸特性をもっていることである。また、小学校期にボールゲームとしてのハンドボールに親しむことは、生涯スポーツへの参加意欲を高めることにもなると考えられる。今年度より新学習指導要領が全面実施されるが、本研究集会では、このようなハンドボールの魅力や諸特性に対して認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったハンドボールの授業づくりについて研修する。

主催　（財）日本ハンドボール協会

主管　秋田県ハンドボール協会　秋田市ハンドボール協会

後援　文部科学省　秋田県教育委員会
　秋田市教育委員会

対象　小学校・中学校および高等学校教諭　教員養成大学学生・大学院生および教官　地域スポーツ指導者等

会期　平成14年7月30日（火）・31日（水）

会場　秋田大学教育文化学部附属小学校
　〒010－0904 秋田市保戸野原の町13－1
　TEL:（018）862-2593 FAX:（018）862-2598

日程

《7月30日（火）》

受付　12：00-12：30

開会式　12：30-12：50

講義　12:50-13:50　角　紘昭（名古屋市立中川小学校長）

研究発表　14：00-15：10

実技研修　15：30-17：00　大西武三（筑波大学教授）

交流会　18：00-20：00

《7月31日（水）》

受付　8：30-9：00

授業提案　9：00-11：00
秋田大学教育文化学部附属小学校3年生「ハンドボール」授業
秋田市立日新小学校4年生「ハンドボール」授業

講演　11：00-12：00　高橋健夫（筑波大学教授）

閉会式　12：00-12：15

事務局　〒010-8502　秋田市手形学園町1－1
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤靖気付
TEL:（018）889-2577　FAX:（018）889-2577
E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp

参加費　4,000円（資料代、および保険料込み。当日受付にて徴収いたします。）

参加申込　①氏名②年齢③勤務先④連絡先住所・電話番号⑤交流会参加の有無を明記の上、ハガキまたはファックスにて上記事務局までお申し込み下さい。

1）締切り日：特に設けません。当日も受け付けます。
2）派遣書が必要な場合は、その旨ご記入下さい。

発表申込　研究集会のテーマに関する研究、及び実践報告を募集します。発表を希望される方は、申込用紙に、⑥として発表テーマをご記入の上、事務局までお申し込み下さい。

1）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき20分です。発表時間は演題数により変更することもあります。
2）発表にはスライド、OHPまたは資料を使うことができます。資料を配布される方は、150部程度ご用意下さい。
3）締切り日：7月19日（金）
　尚、資料の送付を希望される方は、期限までに上記事務局までご郵送下さい。

宿泊　宿泊を希望される方は、直接下記へお申し込み下さい。その際、必ず「本研究集会参加」とお申し出下さい。

1）申込先：JTB秋田支店　担当　浅利・松坂
　TEL:（018）862-6193 FAX:（018）865-5189
2）宿泊先：アキタシティホテル
　一泊朝食付税金・サービス料込お一人様
　特別料金　シングル 6,500円　特別料金　ツイン 6,000円

2005年世界選手権

IHFは2005年世界選手権開催立候補の申し込みを受け付けた。3大陸のナショナル連盟が開催に興味を示している。

男子世界選手権については、ロシア、ドイツ、ノルウェー、チュニジアが完璧な書類を提出している。中国、コートジボアール、ノルウェーは女子世界選手権に、ハンガリーとノルウェーは男子ジュニアに、ブルガリアは女子ジュニアにそれぞれ興味を示している。

申込書は責任部署の審査後総会に提出され、11月サンクトペテルブルグで決定される。

2005年WCの日程一覧

男子WC	1月24日～2月6日
女子WC	12月5日～18日
男子ジュニア	8月22日～9月4日
女子ジュニア	8月1日～14日

2003年世界選手権にオセアニアにも枠一つ

2003年IHFの4つの世界選手権に、オセアニア大陸代表が初めて参加する。オセアニアはフルにその立場を認められてきており、5番目の大陸連盟として枠を持つ権利がある。

この結果大陸枠は再配分となり、一つは義務枠、もう一つは、前回世界選手権で個々の大陸が残した成績枠となる。したがって枠は以下のとおり。

◇**男子24チーム**：ヨーロッパ11、アフリカ4、アジア3、パンアメリカ3、オセアニア1

世界チャンピオンのフランスと開催国ポルトガルは自動的に資格を持つ。

◇**女子24チーム**：ヨーロッパ12、アジア3、アフリカ3、パンアメリカ3、オセアニア1

世界チャンピオンのロシアと開催国オランダは自動的に資格を持つ。

◇**男子ジュニア20チーム**：ヨーロッパ11、アジア2、アフリカ3、パンアメリカ2、オセアニア1

開催国アルジェリアは直接資格を持つ。

◇**女子ジュニア20チーム**：ヨーロッパ11、アジア3、アフリカ2、パンアメリカ2、オセアニア1

開催国ブラジルは自動的に資格を持つ。

予選と日程

男子世界選手権は、2003年1月20日よりポルトガルで開催されるが、大会参加チームが徐々に姿をあらわしている。

ヨーロッパは、スウェーデン、ドイツ、デンマークが2月始めのヨーロッパ選手権で資格を得た。6月のプレーオフで残りの8が決まる。下記の対戦が決まっている。

イスラエル 対 スロヴェニア
ハンガリー 対 ウクライナ
オーストリア 対 スペイン
ポーランド 対 スイス
ノルウェー 対 ユーゴスラビア
マケドニア 対 アイスランド
リトアニア 対 ロシア
クロアチア 対 チェコ共和国

アジアは、クウェート、カタール、サウジアラビアが資格を得た。この大会には7チームが参加、強いと言う評判の韓国、日本のナショナルチームは敗退した。

アフリカは、義務枠3と成績枠1があり、カサブランカの第15回大陸選手権で割り当てが決まる。

パンアメリカは、7月ブエノスアイレスで配られる。まだ登録は完了していない。

オセアニアは、歴史上初めて他大陸の予選を行うことなくWCの義務枠が与えられる。規則に従い、該当チームは7月半ばまでに決定されなければならない。

予選ラウンドの組合せ抽選は7月下旬予定、IHFによりポルトガルで行われる。

新しい試合システム

男女の世界選手権について、IHF評議会は開催国に合わせて改革を行う事を決定。以前のノックアウトシステムの代わりに予選ラウンド完了後に本戦ラウンドをを行い、予選ラウンドで資格を得たチームのポイントを本戦ラウンドでも考慮に入れる。このシステムはチームが1度つまづいた後でも選手権獲得のチャンスを持ったまま試合ができる事を目指している。

ポルトガルの世界選手権では、4チームの4グループが、女子は各6チームの2グループが本戦ラウンドを行う。したがって試合日程に沿って、8から12チームが予選ラウンド終了後帰国となる。

2003年WC日程一覧

男子・ポルトガル	1月18日～2月2日
女子・オランダ	11月30日～12月14日
男子ジュニア	8月24日～9月7日
女子ジュニア	8月3日～17日

平成14年度 第10回全日本ハンドボールマスターズ 大会要項

1. 趣旨 「国民の誰もがそれぞれの体力や年齢・技術・興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する」というスポーツ振興基本計画中間発表（H12年発表）は、本年度で10回目を迎える、本大会が掲げてきた趣旨に合致するものである。これまでの歩みに自信と確信を持ち、我が国のハンドボールの更なる発展と普及、ハンドボーラーのスポーツライフ充実を願って開催するものである。

2. 主催 （財）日本ハンドボール協会
全日本教職員ハンドボール連盟

3. 主管 愛知県ハンドボール協会　豊田市ハンドボール協会

4. 後援 愛知県教育委員会　豊田市教育委員会
（財）愛知県体育協会 （財）豊田市体育協会　中日新聞社

5. 協賛 大塚製薬株式会社　株式会社モルテン

6. 期日 平成14年7月26日（金）午後5時より
7月27日（土）～7月28日（日）両日とも9時スローオフ

7. 会場 豊田市体育館　中京大学豊田学舎6号館大体育館

8. 試合方式 上記大会趣旨に則って、参加するチームを下記の2つの性格のグループに分類してゲームを実施する。

①いつまでもプレーを続け、ゲームという緊張感を楽しむグループで、優勝などを求めないこととする（このグループを交流会型と呼ぶ)。
・グループ分けについて：チームの希望と平均年齢をもとに大会本部でグループ分けを行う。
・試合方式：リーグ戦

②ある程度高齢になっても「まだ出来る」という実感を楽しむグループで、順位を決めていくものとする（このグループを順位決定型と呼ぶ)。
・試合方式：参加チーム数により大会期間中で行える色々な方法を考える（トーナメント方式、リーグ戦および順位決定方式など)。
・交流会型、順位決定型とも3～4ゲームを組む。

9. 試合時間 試合時間についてはどちらの型も参加チーム数により、大会本部が決定する。

10. 参加資格 男女とも年齢制限を設ける。男子は1962年3月31日生以前の者。女子は1967年3月31日生以前の者として、参加者はこれを厳守しなければならない。

11. 参加人数
①役員は、監督および2名の競技運営委員とする。
②選手は1チーム20名までとする。(役員は選手を兼ねることが出来る。)
①選手の背番号は№1～20の通し番号とする。
(ユニフォームについては、16.備考の項を参照してください。)
②各チームはチームを代表する責任者として部長（顧問）または監督を付添いとすること。

12.その他
①個人申込者のチーム所属については大会本部の調整によるものとするが、申込者の希望も受け入れる。
②参加チームは2名の競技運営委員を申込書に必ず明記する。この2名は競技運営が円滑に行えるよう協力する。

13. 組合せ 大会事務局にてあらかじめ原案を作り、競技運営委員会にて決定する。

14. 諸会議・開会式
［日時］ 平成14年7月26日（金）午後5時より
［会議］ 豊田市体育館会議室
各チーム運営委員2名は必ず出席してください。

15. 閉会式 平成14年7月28日（日）競技終了後直ちに行う。遅くとも午後2時までに終了。

16. 備考
①競技場：豊田市体育館フロアー2面（サイドライン38m、アウターゴールライン20m）
中京大学豊田学舎体育館（3面まで作成可）
②試合球：男女共にモルテン手縫い・人工皮革（グリップ）ボール（32H313、32H213）を使用する。
③シューズ：屋外用と屋内用は必ず区別すること。(厳守)
④松ヤニ：豊田市体育館は松ヤニ使用可ですが、フロアーを汚さない程度で使用して下さい。中京大学体育館は両面テープのみ使用可とする。
⑤ユニフォーム：濃淡2色を2着以上用意し、GKと同一色でないこと。大会事務局にゼッケン（№1～20が3色）の用意があります。
⑥練習用ボール：大会事務局では、試合球の他に練習用ボールを用意しております。
⑦救護：大会試合中の傷害については、近くの病院へ搬送いたします。必ず保険証を持参して下さい。キネシオテーピングとテーピングのサービスを行います。
⑧大会事務局連絡先
〒470-0348 愛知県豊田市貝津町床立101 中京大学体育学部内
全日本教職員ハンドボール連盟　小山哲央　宛
Tel：0565（45）0971 内線3544　Fax：0565（46）1297
E-mail：tetsu-ko@hm.aitai.ne.jp

親子でハンドボールまつり

－楽しい「親子ゲーム大会」の参加者を募集します
期　日：7月27日（土）12：00～（大会運営上変更する場合があります）
場　所：豊田市体育館、中京大学豊田学舎大体育館
指導者：文部科学大臣認定日本レクリエーションコーディネーター／若松義則氏
こんなことやるよ……・ハンドボール入門（投げて、走って、受けて、シュート）・シュート合戦・親子でペナルティー合戦・楽しいふれあいゲーム　など

協会だより

平成14年4月度常務理事会

［日　時］平成14年4月13日（土）
11時〜15時
［場　所］代々木競技場会議室
［出席者］山下副会長、大西専務理事、
常務理事8名、監事1名、
参事2名、事務局4名

会議に先立ち新入職員の紹介があった。

【議事】

1. アジアナショナルサーキットについて

参加チームについて以下の報告があった。

韓国は実業団連盟が選手団を派遣して来る事になった。

日本は、全日本男子と全日本男子Pが出場する。

日中韓による東アジア協議会を開催予定であったが、韓国ハンドボール連盟が来日できなくなったので、代わりに同日に懇談会を持つ事になったとの報告

2. 平成14年度ナショナルチーム事業計画

平成14年度全日本女子チーム事業計画、全日本男子及び全日本男子Pの今後の強化の進め方、強化委員会議事録に基づき、説明。

強化に関する委員会・部会の組織及び役員、並びに各ナショナルチーム監督・コーチについて説明

3. アテネオリンピック予選

神戸市関係者との会談経過と内容について報告がなされ、行政にアプローチする時期になった事が報告された。

4. 平成14年度国内外大会派遣役員について

役員各自の都合を確認の上、再度調整決定する事とした。

5. 外国人選手の取扱について

登録外国人選手の推移について説明があり、ナショナルチーム強化という面から問題提起をした。見なおしの方向で検討する事となり、先ず実態調査をする事となった。

6. プロジェクト21について

日本ハンドボール協会の理念について説明があった。登録金に関する実行計画をワーキンググループを作り5月末までに完了したいと報告があった。

7. 競技者資格規程について

競技者資格規程改正案について説明があり、更に検討の上、再提案する事となった。

【報告事項】

1. 国体改革について

国民体育大会改革案（新しい国民体育大会を求めて）について報告。

2. 審判部報告

資料により報告。

3. 第26回日本リーグプレーオフ報告

資料により報告。ドッジボールとの連携を深めるべく、全日本総合での共同開催を県協会に依頼中との報告があった。

4. がんばれサポート会員・還元金について

資料に基づき報告があった。

5. その他

国際委員会報告
普及促進に関する提案があった。

「がんばれハンドボール10万人会」4月新規入会・継続更新会員の紹介

【北海道】加藤慶仁**【栃木】**山下勝司**【群馬】**高橋　泉**【埼玉】**西山逸成、細津　誠、佐藤秀明**【千葉】**木内久美子、木内　兵太郎**【東京】**出原　理**【神奈川】**川邊孝夫、久保弘毅、佐分正典**【長野】**加藤雅之**【石川】**酒谷信彦、古橋幹夫**【福井】**太田　博、由岡あつ子**【愛知】**早川弘三、西川勤也**【三重】**スタニスラブ・クリチェンコ、三谷日出雄、嶋谷久則、谷元一己、羽賀太一、佐々木教裕、鈴木信次、吉井丈晴、谷口　了、鶴見　拓、関根和彦、大畑俊輔、大畑佑斗、大畑由美子、大畑孝広、大畑友香、勝田　明、勝田和子**【岐阜】**杉森弘幸、斎藤和義、坂井田隆浩**【滋賀】**上田健一郎**【京都】**久保公雄、久保靖子**【大阪】**小山　章、大槻義昭、今村英俊、津熊美智子、進藤義幸、斉藤宜子、村川雅哉、逢坂静男、藤田洋之**【和歌山】**能木　進**【広島】**大橋季彦、山本光義**【山口】**明石雄次**【香川】**平木一令**【愛媛】**増田利之、田上章一、武知浩二、戸梶良子、松原一恵、松原誠起**【高知】**成岡　浩、澤田哲雄、井上　敏、宮崎光一、平野まゆみ**【福岡】**城島圭子、佐伯紘一、稲積　恵、進藤宗洋、出口智昭、和佐野健吾**【長崎】**石井通義**【熊本】**佐久間克彦**【大分】**阿部　末忠

【6月の行事予定】

［会議］

6月8日(土)　午前：常務理事会（東京）
　　　　　　午後：第1回理事会（東京）
6月22日(土)第1回評議員会（東京）

［講習会］

6月20日(木)～23日(日)
公認B級ハンドボールコーチ養成講習会

★編集後記★

現在、各都道府県で多くの高校3年生の最後の大会となるインターハイが始まっています。その日に組まれた試合の数だけ、負けるチームがあり、涙する姿も見られます。その涙にはきっと自分の高校生活が詰まっていることと思います。がんばった皆さん、そして多くの指導者の方々お疲れさまでした。まだ、勝ち残ってるチームの皆さんがんばってください。そんな試合が一試合でも多く見られるようにがんばっていきたいと思います。

（梶原敏幸）

HAND BALL CONTENTS Jun

（登録チームの購読料は登録料に含む）

2002コートの主役

PKCH3-AD　　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革
パ

PKCH2-AD　　¥4,500 パ

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革

商社から進化します。

今、あなたの知らない伊藤忠商事が、動き始めました。
その目的は、ニュー・エコノミーゾーンを強化して、新たな産業を開拓していくこと。
そして、商社という枠に捕われることなく、全てのフィールドを見据えて、ビジネスを勝ち抜いていくこと。
商社を超えて"戦略的企業集団"へと進化する伊藤忠商事。その可能性は、まだまだ無限大です。

伊藤忠商事株式会社

URL http://www.itochu.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四三〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十四年五月二十六日印刷 平成十四年六月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円